

今年はサクラやフジなど、春の花の開花が2～3週間ほど早めです。でも、中にはフデリンドウや、間もなく開花となるカザグルマなど、ぴったり例年通りのタイミングで咲く花もあります。花の季節を読むのは難しいものですね。博物館のおとなりの樹林では、林床がそろそろ緑でおおわれてきて、春の花が埋もれようとしています。今回は「春の花、最終章」として、見納めとなる春の花と、そこに集まる虫たちなどを観察しましょう。

可憐な春植物 フデリンドウ

高さは6、7センチにしかならない、典型的な春植物です。春植物とは、花が終わって結実すると、地上部が消えてなくなってしまう植物のことで、毎年4月初旬から下旬にかけて咲きます。かつては明るい雑木林にふつうに見られましたが、林床が管理されずにヤブになったり、常緑樹の暗い林になったりすると消えていってしまいます。そのため現在、相模原市内では里山の管理がされている場所などに残る貴重な植物となってしまいました。ただし一年草で発芽率は良く、環境条件さえ合っていればたくさん増えていきます。



フデリンドウ



カントウタンポポ

在来のタンポポ カントウタンポポ

留保地のフェンス内に咲いているのは、ほとんどがカントウタンポポです。最近、セイヨウタンポポとの雑種が増えて市内でもいたるところで見られますが、この場所に咲いているものは、花粉を顕微鏡で検定するなどして、雑種でないことが確認できています。ただし、博物館の駐車場に咲いているものは、雑種です。総苞（花の受け皿の部分）のちがいをみてみましょう。

モコモコの毛で春一番に訪花するピロードツリアブ

まだほとんど昆虫が出てきていない春先から、せっせと花を訪れてはひたすら蜜を吸い続けてきたのが、ピロードツリアブです。1センチほどの体に、同じくらいの長さの口吻（ストロー状の口）を持ち、空中をたくみにホバリングしながら吸蜜します。早春の寒さをしのぐためでしょう、体に暖かそうな毛が密生しています。でも、季節が進んで日射しが強くなってこの季節は、なんだか暑そうですね。



写真上) トキワハゼで吸蜜するピロードツリアブ
下) ヤブヘビイチゴ



次回のお知らせ

ミニ観察会：5月25日（土）12時～12時30分まで
新聞 No.26 も発行します。